



ながたに暮らし体験記

五右衛門風呂も体験して、

2月25日に、念願の柴北川の皆さんとの新年会、今年初めて参加でき、釣りの師匠、母ともにととても幸せな時間をいただきありがとうございます。

田植え、稲刈り、竹炭作りなども、皆さんと過ごす時間は宝物です！

毎日の生活の中、ふと柴北川の皆さんの笑顔や情景を思い出しては癒されています。

今回は三浦さん宅の初めての五右衛門風呂がとても魅力的でした。

毎回ワクワクする発見がいっぱい♪
これからも皆さんと

末永く素敵なお時間を過ごせますように☆ミ

(武市明子)



「来ちみなあハウス」の使用について

- ハウスは一時使用が可能です。
店子会員でなくても、ハウスの一時使用は可能です。
- 使用料は不要ですが、維持管理のために寄付をお願いします。
- お問い合わせ等は、店子グループ「管理人」まで。
 - ・波木健一（共助研・事務局）
 - ・渡邊雪法（柴北川を愛する会・事務局長）



2017年3月22日発行

来ちみなあ 7号

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」（和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅）での活動を紹介します。発行：「来ちみなあハウス」店子グループ

共助研からの伝言

長谷でも「田園回帰」を！ その6

ついこの間までは、国をあげて“地方創生、地方創生”と声高に叫ばれていたのですが、昨今の国際情勢の大きな変化や、身近な地震災害への対応等に世の中の関心が移ってしまったせいか、ここのところ地方創生の取組があまり話題に挙がらなくなってしまいました。

それでも、地方創生の取り組みは続いており、豊後大野市でも、竹チップ活用のバイオマス発電など、「柴北川を愛する会」による竹林整備の活動を後押しするような地産地消型エネルギープロジェクトの具体化が、徐々に進んでいるようです。

「田園回帰」という取り組みも、その成果がすぐに表れてくるような取り組みではありません。既に進められているマチとの交流や、地元資源を活かした仕事づくり等の活動を通して、地道に息長く取り組むことで少しずつ具体的な成果が上がってくるのかもしれませんが。

もうすぐ、山桜の季節。共助研では、マチの視点からの「長谷の宝」再発見に向けて、この春に今一度、長谷探検隊2017を結成する予定です。皆さんも、一緒に探検してみませんか。（波木健一）



岩屋橋の上流を、すっきりと。

2月25日に柴北川を愛する会は、岩屋橋の300m上流で、川に倒れ込んでいた竹の伐採をおこないました。イノシシはスイスイ通るのですが、チェンソーやナタ、ノコを携えて歩けるような状態ではありませんでした。

しかし、ある時はスーツの紳士、ある時は百姓、冬は山師、夏は漁師と変幻自在な会員は、茨のトゲやターザンが欲しがりそうなロープのようなカズラの藪を切り開き、何年かぶりに懐かしい川岸が見えるようにしました。

いつも夕方になると、昨年生まれたイノシシの3兄弟がこの竹藪から顔をのぞかせていたのですが、このように人の目に触れやすくなったことについて感想を聞いてみたいと思っています。

きれいになった手前の川には透明な寒天ゼリー状の蛙のタマゴと、すでにふ化したオタマジャクシが無数に泳いでいました。そして、周囲の岩にはネコヤナギのシルバー色のベルベットで紅筆のようにやわらかな花がたくさん咲いていました。私の孫娘だったらきつと頬ずりをするだろうと思いました。（高野和幸）



(高野和幸)

